

# 平成10年度 和歌山県文化功労賞

いま がわ とみ じ  
今 川 富 治 (号 凍光)

住 所：和歌山県海草郡下津町

出 身 地：和歌山県有田郡広川町

生 年：大正3年

## ◎業績及び経歴

氏は、大正3年有田郡広川町に生まれ、旧制耐久中学校卒業後、京都の西山専門学校で宗教について学んだ。

この京都での生活の中で、俳人鈴鹿野風呂に師事し句の道に入る。

昭和12年に現役入隊し兵役についた後も、俳句を志す心は変わらず、2年間の除隊をはさみ終戦までの間、中国東北部や東南アジアなどを転戦をしながらも、句を詠み続けた。

終戦後、下津町にて教職に従事する傍ら、天狼を主宰する俳人山口誓子に師事し、更なる自己研鑽に努める。

昭和32年には同師を招き岩根冬青氏らとともに「和歌山天狼会」を結成し、「天狼会誌」を発行する。現在も、「岬」と改題し活動を続け、以来、今日まで1回の休刊もなく、県下を中心に九州から関東まで、同人・詩友を有する俳句誌に育ったのは、世界的に見ても希有な非常に短い17音の文学である俳句を愛する心と、寝食を惜しまず、選句・編集・構成等を行ってきた、氏の功績の賜である。

昭和57年には、俳句歴が50年をかぞえ、この半世紀にわたる間に創作した多くの句の中から551句を選び、句集「五十年」を出版し、広く賞賛を浴びた。

また平成4年には、限りなく天空に広がっていくことを題名とした、第二句集「弥天」を出版した。

こうした活動のほかに、和歌山県における俳句文化の育成のためには、俳句結社を越え集うこと

が不可欠と考え、紀伊山脈刊行会の結成に参画し、合同句集の発行に尽力した。

こうして昭和29年には同会が発足し、合同句集「紀伊山脈」を発行することとなった。

分立の厳しい俳句界において、このような合同句集が発刊されていることは、全国的にみても非常に貴重なことである。

氏は現在も、4代目会長としてこの紀伊山脈刊行会の運営に尽力するとともに、各新聞紙上において俳壇選者を務めるほか、各種句会の企画運営に携わるなど、後進の指導にも力を注いでいる。

我が国の風土により磨き抜かれた文学である俳句をとおした、氏の地域文化に対する功績は多大である。

## ■現在

紀伊山脈刊行会会長

岬俳句会主宰

下津俳句会会長

## ■主な表彰歴等

昭和32年 下津町長表彰

(幼稚園教育に対する功労により)

昭和38年 下津町長表彰

(俳句運動への功績により)

昭和48年 下津町教育文化功労者表彰